

# てん茶栽培の二番茶期における主要病害虫の効果的な防除法

炭疽病には治療・保護殺菌剤の効果が高く、殺虫剤と殺菌剤の混用による同時防除は萌芽～0.5葉期の散布が効果的

## 背景・目的

- ・てん茶栽培において二番茶期の主要病害虫に対する薬剤防除は、約2週間の直がけの長期被覆を行うことを前提とした散布時期や散布薬剤の選定が必要
- ・長期被覆による炭疽病の発病への影響や、主要病害虫に効果的な散布薬剤及び散布時期について明確化

## 成果の内容

・長期被覆は炭疽病の発生を抑制する効果があり、萌芽～被覆開始(1.5葉期頃)の無被覆期間が主な感染時期となる(図1)

・二番茶期は降雨が多く、炭疽病は散布前に感染することも多いため、炭疽病に対しては治療・保護殺菌剤の効果が高い(図2)

・新芽加害性害虫には萌芽～0.5葉期の防除効果がやや高い(図3)

・殺菌剤と殺虫剤の混用による病害虫同時防除は萌芽～0.5葉期散布が効果的

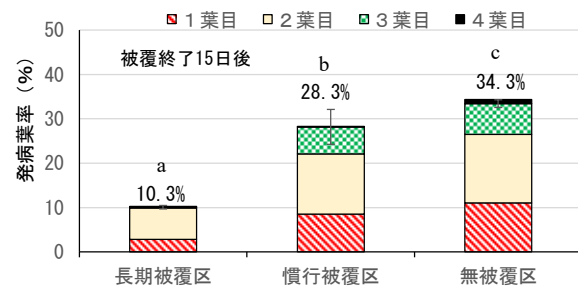


図1 被覆条件別の炭疽病の発病葉率及び葉位別発病割合(二番茶期・各区殺菌剤無処理)

注)異なる英小文字間は有意差あり  
(arcsin変換後 Tukey-Kramer法  $p < 0.05$ )

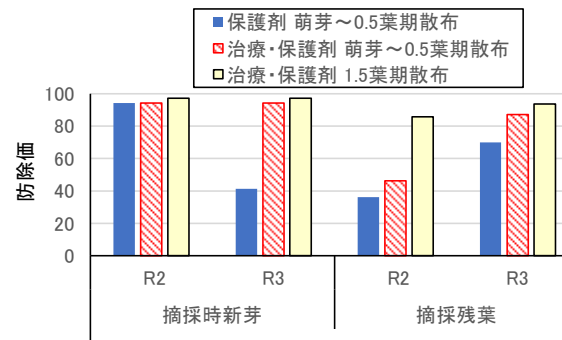


図2 作用の異なる殺菌剤の炭疽病に対する防除効果

注1)保護殺菌剤:フロンサイドSC(2000倍)  
治療・保護殺菌剤:インダーフロアブル(5000倍)  
2)防除価=(1-処理区の発病葉数/無処理区の発病葉数)×100

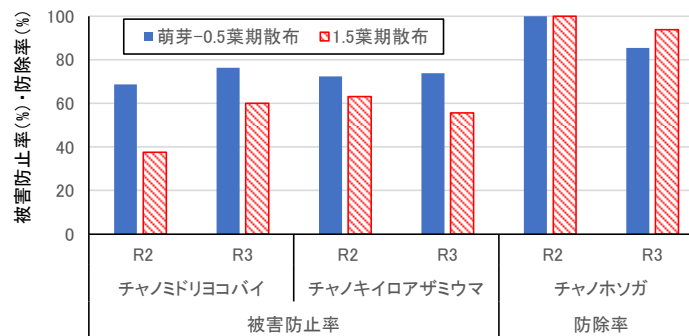


図3 殺虫剤の異なる散布時期による主要害虫への防除効果

注1)殺虫剤はウララDF(2000倍)とディアナSC(5000倍)の混用  
2)被害防止率(%)=(1-処理区の被害芽数/無処理区の被害芽数)×100  
3)防除率(%)=(1-処理区の三角巻葉数/無処理区の三角巻葉数)×100

## 期待される効果

- ・てん茶栽培における病害虫防除の合理化・効率化
- ・効果的な病害虫防除の実施によるてん茶の生産量及び品質向上
- ・てん茶栽培に多い米国向け輸出茶の産地拡大及び安定生産



## 【普及対象・範囲】

県内てん茶生産農者及び茶業技術員

鹿児島県農業開発総合センター  
生産環境部病理昆虫研究室

(委託プロジェクト研究)